

事業計画書

1 財団の設立目的と設立以降の経過

当財団は、昭和34年8月任意団体として発足し、昭和37年4月に文部大臣より財団法人として認可され、設立されました。以来60余年の長きにわたり、「蛋白質・ペプチド等に関する研究と、これらに関する学術研究の奨励と発展に寄与する」ことを目的として事業を展開してきました。

また、平成20年12月に新公益法人制度改革三法が施行され、この法律に基づき、平成25年4月1日より一般財団法人(非営利型法人)に移行し、新法律に基づいた一般財団法人として、発展的にこれらの事業を進めてきました。

平成28年度から収益事業として、一般社団法人日本蛋白質科学会、日本ペプチド学会等の事務代行事業を行っています。

令和元年11月から収益事業として、ケンブリッジ結晶構造データベースの事務代行事業を開始し、現在に至っています。

また、令和4年度より、国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)の「統合化推進プログラム研究開発(蛋白質構造データバンクの統合化とデータ利用高度化)」に分担研究機関【研究分担者：栗栖源嗣(招聘研究員・大阪大学蛋白質研究所・教授(兼任))】として採択され、日本蛋白質構造データバンク(PDBj)の維持・開発に参画しています。

2 事業計画について

引き続き以下の事業に取り組みます。

(1) 研究助成事業

国立大学共同利用・共同研究拠点である大阪大学蛋白質研究所における研究活動、講演会・セミナー開催等への助成、若手研究者への奨学金支給等の助成活動を行います。

また、アミノ酸、ペプチド、蛋白質に関する研究活動を行っている全国の若手研究者に対して研究費の助成を行います。さらには、これらの研究の推進を図っている一般社団法人日本蛋白質科学会、日本ペプチド学会等の運営経費や学会開催経費の支援を行います。

(2) 研究支援事業

令和4年度より開始した「蛋白質構造データバンクの統合化とデータ利用高度化」研究分担事業を令和7年度も継続し、日本蛋白質構造データバンク(PDBj)の維持・開発に参画していきます。また、広報活動にも配慮します。

蛋白質・ペプチド等に関する各種の情報をデータベース化するとともに、そのためのシステムの開発に取り組みます。

引き続きデータベース構築を進めるとともに、今までに蓄積してきたデータベース構築技術を使い、公共データベースの構築に協力していきます。

(3) 収益事業

① 建物等賃貸事業

建物の一部(事務室・サーバー室)及び駐車場(11台分)の賃貸事業を行います。

サーバー設置者のためにサーバーシステムの管理、指導を行います。また、駐車場については未使用部分の収益向上に努力します。

② レンタルサーバー等事業

当財団内に設置している高機能サーバーを用いて、レンタルサーバー事業を引き続き行います。

③ 学会等事務代行業

一般社団法人日本蛋白質科学会、日本ペプチド学会及び日本MA-T学会等の学会事務代行業は、当財団の令和7年4月からの人員配置に即した見直しを検討します。

④ ケンブリッジ結晶構造データベース(CSD)事務代行業

大阪大学蛋白質研究所からの依頼をうけて、CSDに関わる事務代行業を行います。

(4) その他の事業

昨年度に引き続き研究・開発を行うため、日本学術振興会科学研究費補助金募集に応募します。

3 財政状況の検討について

投資有価証券等の資産を効率的に運用するよう努めます。さらに長期的に、財政基盤が安定強化できるよう検討を進めます。